Title	第三期目に入る「グローバリゼーション研究」
Author(s)	田中，浩
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.43 別冊, 2009.1：3-4
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4025
Rights	

聖学院学術情報発信システム ： SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

第三期目に入る「グローバリゼーション研究」

共同研究「グローバリゼーション研究」は、聖学院大学総合研究所の十五の「共同研究」のうちでとくに重要なプロジェクトとして位置づけられている。二〇〇三年一二月の第一回報告から二〇〇九年二月の第四六回研究報告までの第一期～第二期を経て、いよいよ第三期目に入る。私は二〇〇五年三月からプロジェクトの研究代表を引き継いだので、この「共同研究」が作られた経緯はくわしくは存じ上げない。しかしおそらく二つの理由から研究会が立ち上げられたのではないかと思う。

一つは一九八九年一二月の「冷戦終結宣言」後の現代世界の新しい変容を知る上で、国際金融情勢の研究が政治的・経済的・思想的にきわめて有効であるという学問的関心、もうひとつは二〇〇一年九月一一日の「貿易センタービル爆破事件」の発生に端を発する「イラク戦争」（二〇〇三年）などの「東西対決」に代わる新しい民族問題や国際関係をめぐる諸問題をどう読み解いたらよいかという理由からではないかと思われる。

したがって、この「共同研究」は、「グローバリゼーション」という名でひと頃問題視されたアメリカの「覇権主義」や歯止めのない利潤至上主義を唱える「市場原理」をめぐる問題だけを研究してきたわけではないことはいうまでもない。そのことは講師の先生方のタイトルをいくつか例示すればただちにわかるであろう。大木英夫「近代化とグローバリゼーション」（第二回）、速水優「経済のグ

ローバリゼーション」（第五回）、坂本義和「グローバリゼーションと政治」（第七回）、加藤哲郎「グローバリゼーションと情報」（第一二回）、中村健吾「ＥＵという名の帝国――グローバル化と欧州統合のもとでの国家性の変容」（第二七回）、樋口陽一「グローバリゼーション下の『過去の清算』（第二九回）、山室信一「グローバリズムとリージョナリズムの相克――近代日本の挑戦と挫折――」（第三〇回）、宮本太郎「グローバル時代における福祉ガバナンス――脱『格差社会』の可能性――」（第三四回）、小杉泰「イスラーム復興とグローバル化する国際社会」（第三五回）、板垣雄三「タウヒードを参照軸としてみるグローバリゼーション」（第三九回）、下斗米伸夫「二つのロシア――古儀式派・ナショナリズム・国家」（第四〇回）、豊下楢彦「『国際貢献』論と集団的自衛権」（第四一回）、小島晋治「中国における民主主義改革派の登場とその思想」（第四四回）、暉峻衆三「グローバル下、日本が直面する食料・農業問題」（第四五回）、浅野栄一「グローバル化経済とケインズ経済学」（第四六回）。

二〇〇九年四月からは新しい第三期計画が始まるが、折しも二〇〇八年九月の「リーマンブラザース社」の破綻による「金融大不況」が発生し、現在世界中で人類の真の幸福と平和を求める思想や理論が求められている。その意味で「グローバリゼーション研究」プロジェクトの重要性をますます痛感している。

聖学院大学大学院教授
田中　浩